

もち 加工適性に優れる水稲「山形糯128号」の栽培暦

山形県農業総合研究センター水田農業試験場

研究のねらい

水稲早生品種の「山形糯128号」は収量性に優れ、穂発芽しにくく、良食味で伸び餅が固まりやすい新品種であり、「ヒメノモチ」に代わり県内全域での栽培が想定される。そこで、「山形糯128号」の収量が安定して得られる生育指標や栽培方法について明らかにした。

研究の成果

- ① 「山形糯128号」が収量630 kg/10aを確保できる㎡当たり粒数は31,000粒である(表1)。
- ② 出穂後40日間平均気温が22℃未満になると製餅24時間後の伸び餅硬度が低下し、24.5℃以上になると餅の白色度が低下しやすいことから、加工適性の高い糯米を得るための最適な出穂後40日間平均気温は22℃~24.5℃である(図1、2)。
- ③ 「山形糯128号」の生育指標や栽培方法をまとめた栽培暦を作成した(図3)。

表1 「山形糯128号」の収量目標と収量構成要素

収量 (kg/10a)	穂数 (本/㎡)	一穂粒数 (粒)	㎡当たり粒数 (粒)	精玄米粒数歩合 (%)	千粒重 (g)
630	430~470	66~72	31,000	84	24.3

注1) 本データは選別網目1.9mmのデータである

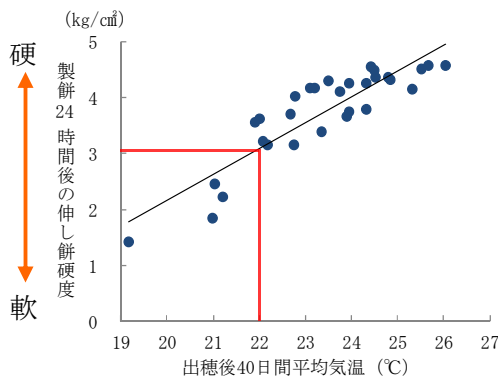


図1 登熟気温による伸び餅硬度の変化

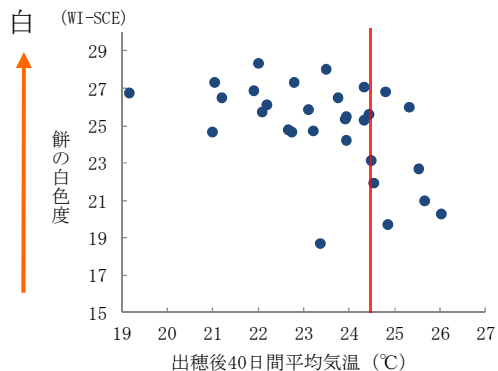


図2 登熟気温による餅の白色度の変化

山形糯128号のつくりかた

「山形糯128号」の特徴

- 出穂期は「ヒメノモチ」より1日早く、成熟期は「ヒメノモチ」
- 穂数は「ヒメノモチ」より多く、やや短穂
- 穂数は「ヒメノモチ」より多く、中間型

農薬

- 収量性は「ヒメノモチ」に優る
- 穂発芽性は「ヒメノモチ」より強い「中」
- 虫害発生が希で、主食用米の適当性がある

雑草

- 除草剤耐性は「中」
- いも病の耐病抵抗性は「やや強」

時期別生育指標

月日	実数 (000)	実数 (5 P.A.D)
6月10日	31	280
6月20日	37	430
6月30日	45	510
7月10日	64	550
7月20日	77	510
7月30日	76	450

基本指標

目標 収量	630 kg/10a
穂数	430 ~ 470 本/㎡
1穂もみ数	66 ~ 72 粒
㎡当たりもみ数	31,000 粒
千粒重	24.3 g
精玄米粒数歩合	84 %

施肥量 (kg/10a) の目安

要素	リキ	カリ	リン
基肥	7~8	7~8	7~8
幼穂形成期	2	-	2
合計	9~10	7~8	9~10

生育時期

月日	播種	出穂	収穫
5月10日	5/10	6/10	7/10

水管理

播種後10日頃、田面を乾かし、5cm程度の浅水で育てる。出穂後30日間は水を切らない。

管理の要点

- 施肥**：基肥は播種時、追肥は出穂25日前
- 防除**：いも病、雑草、害虫の発生に注意

早生良食味糯品種「山形糯128号」の栽培ポイント

安定多収のための土づくり

- 土壌改良：有機質を高める
- 肥料の過剰使用を避ける
- 追肥は原料が分解特性が異なるので特性を把握
- 土壌のpHは5.5程度を維持

安定多収のための施肥体系

- 基肥は播種時、追肥は出穂25日前
- 玄米の歩合が高くなる。餅の食味に及ぼす影響は小さい
- 肥料の過剰使用による品質の低下を避ける

品質向上のための刈取・乾燥調整

- 刈取時の刈高は1,000~1,200cm
- 刈取後は自然乾燥を20%程度
- 刈取後は玄米歩合の向上に注意

図3 「山形糯128号」の栽培暦